

## 第2学年 音楽科学習指導案

東京都公立小学校

### 1 題材名 「わらべうたに親しもう」

### 2 題材のねらい

- (1) わらべうたの旋律の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する能力を身に付ける。
- (2) 旋律、呼びかけとこたえ、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、わらべうたなどで使われる音階を基にした3音の音遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。
- (3) わらべうたの旋律の特徴に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組む。

### 3 題材について

#### (1) 児童の実態について

本学年は2年生の4月から、音楽専科が担当している。第2学年前期には「リズムとなかよし」の学習で「こいぬのビンゴ」や「ぴょんぴょこロックンロール」の歌に合わせて手拍子を打ちながら歌ったり、途中の言葉の音やリズムを変えたりして、拍やリズムの生み出すよさや面白さについて学習した。題材の後半には、動物の鳴き声を用いて、教師の打つウッドブロックの拍にのって、即興的に4拍の言葉のリズムをつかって表現する音遊びを行った。音遊びの経験はまだ少なかったが、児童は拍にのって言葉を唱えることができ、教師が示した鳴き声の例以外にも多様な表現を生み出し、リズムを工夫して表現しようとする姿が見られた。

また常時活動として、1学年時に学習した「おちゃらか」、「なべなべそこぬけ」を行った際には、活動後に「もう一度やりたい」という声も上がり、その後も休み時間に教室などで、楽しそうに歌に合わせて手遊びをするなど、わらべうたへの興味関心が高い様子が伺える。

そこで、本題材では、様々なわらべうたに親しむとともに、わらべうたの旋律の特徴を手掛かりとして、日本のわらべうたで用いられることの多い、民謡音階（ミソラドレの音階）と都節音階（ミファラシドの音階）のうちの3音<ミソラ>と<ミファラ>を用いて即興的に短い旋律をつくる音遊びを行うこととした。

児童にとって、鍵盤楽器を用いて旋律をつくる活動は本題材が初めてである。まずは、音を限定して様々な音をつなげて試し表現する中で、よさや面白さを感じ取りながら、音楽づくりの発想を得て、中・高学年での音楽づくりの学習につなげていけるようにしたい。

#### (2) 題材について

本題材は、わらべうたを歌ったり曲に合わせて遊んだりする活動やわらべうた等に見られる五音音階から3音を用いて即興的に旋律をつくり表現する活動を通して、わらべうたの音楽に親しみ、よさや面白さを味わうことをねらいとしている。

日本のわらべうたは、五音音階でつくられているものも多く、低学年の児童にとっても、すぐに覚えて口ずさんだり、活動をしながら歌ったりすることが容易である。また「なべなべそこぬけ」や「おちゃらか」、「たこたこあがれ」など、隣り合った2音、3音と少ない音でできているものも多く、児童が初めて行う旋律づくりの参考教材としても適切ではないか、と考えた。日本のわらべうたの旋律の特徴として①2、3音の少ない音でできているものが多いこと、②隣り合った音に進むことが多いこと、③反復を用いていることが多いこと、などが挙げられる。このような特徴は、2年生の児童の旋律づくりを行う際の手掛かりとなりうると思われる。

本題材で、わらべうたで使われることの多い、ミソラドレ（民謡音階）、ミファラシド（都節音階）の音階から選んだ3つの音を用いて、即興的に短い旋律をつくる活動を通して、児童が音と音とのつなげ方を試行錯誤しながら音の組合せを考え、自分の気に入った表現を見付けることができるよう支援していきたい。

### （3）学習指導要領との関連

本題材は、小学校学習指導要領の以下の内容に基づくものである。

#### 【A 表現：（3）音楽づくり】

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(ア) 音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。

(ア) 声や身の回りの様々な音の特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること

(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

ア「旋律」 イ「呼びかけとこたえ」、「反復」

## 4 教材について

<音楽づくり>

○3音（ミソラ・ミファラ）をつかった音楽づくり（「ミソラドレ」「ミファラシド」の音階をもとに）

\* 4分の4拍子2小節（8拍程度）

本題材では、日本のわらべうたに使われることの多い民謡音階（ミソラドレ）と箏曲や子守歌などの音楽で使われることの多い都節音階（ミファラシド）の2つの音階から3音を選んで旋律づくりを行う。

<旋律づくりのルール>

- ・ 8拍の長さでつくる。また、8拍目は休符にする。
- ・ 3音のうち、2音以上つかう。
- ・ 終わりは、ミの音にする。

## 児童の作品例

### ミファラの3音



### ミソラの3音



## <参考歌唱教材>

ミファラとミソラを含んだわらべうたなどから、音階の違いを感じ取りやすいと思われるものを選定した。遊びながら音楽に親しむ中で、それぞれの音階の醸し出す雰囲気の違いを感じ取りながら、音遊びの学習につなげていく。

### 「おちゃらか」(民謡音階)

手合わせの遊び歌の一つで、3音で構成されている。児童の好きなじゃんけんを間に取り入れた手遊び歌であり、遊びながら歌を覚えることができる。民謡音階のテトラコルドが使われており、児童の作品づくりの参考になると考え選曲した。

### 「なべなべそこぬけ」(民謡音階)

「おちゃらか」と同じく3音で構成されたわらべうたである。ゆったりとした2拍子系の曲で、旋律やリズムが単純で児童が容易に覚えて体を動かしながら、わらべうたの音楽のよさや面白さを実感できる曲である。

### 「ずいずいずっころばし」(都節音階※中間部を除く)

鬼決めや指遊びに使われるわらべうたの一つである。拳を軽く握って作った輪の中を、歌に合わせ順番に指を入れて遊ぶ。曲の初めでは、ラシドの3音が中心的に使われており都節音階の響きを感じやすい曲と考え参考教材とした。

### 「ことしのぼたん」

前半が都牡丹の花を題材とした日本のわらべうたの一つである。わらべうた「あぶくたった 煮え立った」のように、鬼と会話する劇場型の鬼ごっこ遊びの歌となっている。様々な歌い方があるが、本題材では、児童のつくる旋律に合わせて曲の前半に都節音階が使用されているものを参考教材として使用する。

## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>① わらべうたの旋律の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。</p> <p><b>技</b>① 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、3つの音から即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b>① 旋律、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、わらべうたなどで使われる音階を基にした3音の音遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。</p>	<p><b>態</b>① わらべうたの旋律に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

## 6. 本時の評価の進め方と期待される児童の姿

### 【本時の評価規準】

**技** 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、3つの音から即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。

### 【Aと判断される児童の状況】

選択した3つの音を用いて、リズムや3音の組合せを工夫して旋律をつくり、友達と旋律をつなげて、拍にのって表現している。

### 【Cと判断されそうな状況への手だて】

ペアの友達や他の友達の表現を聴いてつくる旋律へのイメージをもたせたり、隣り合った2音を用いてまずは、拍に合わせて表現できるよう助言したりする。

**態** わらべうたの旋律に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

### 【Aと判断される児童の状況】

わらべうたを歌ったり聴いたりする常時活動や3音を用いて旋律をつくる活動に進んで取り組み、友達と互いの考えを共有しながら、よりよい表現にしようと考えて粘り強く取り組んでいる。

### 【Cと判断されそうな状況への手だて】

友達とつなげて表現する中で、どのようにしたらよりよい表現になるか、いくつか例を示しながら教師や友達と一緒に考え活動に主体的に参加できるよう支援する。

7. 題材の主な指導計画 (全3時間)

時	○主な学習内容 ・学習活動	◇教師の働き掛け◆具体的な評価規準 (評価方法)
1	<p>○日本のわらべうたを聴いたり歌ったりして、わらべうたの音楽の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おちゃらか」、「なべなべそこぬけ」「ことしのぼたん」、「ずいずいずっころぼし」などのわらべうたを聴いたり、歌ったりして旋律や音階の特徴を感じ取る。</li> <li>・「ミソラ」、「ミファラ」の音をつかい、声やミニキーボードで音遊びをする。</li> <li>・「ミソラ」の3音をつかって声やミニキーボードで8拍の即興的な旋律づくりをする。</li> </ul>	<p>◇既習の曲に加えて、都節音階が使用されている2つのわらべうたを扱い、遊びながらわらべうたを何度も聴いたり口ずさんだりして、曲の特徴を感じることができるようにする。</p> <p>◇教師の範奏を真似したり、楽器で弾いた音を階名で歌ったりして慣れることができるようにする。</p> <p>◇つくる旋律の長さを図で示すと共に、教師が唱える拍に合わせてつくった表現を何度か演奏し、つくる音楽のイメージが持てるよう支援する。</p>
2	<p>○反復や呼びかけとこたえの仕組みに着目して、わらべうたを歌ったり、ミニキーボードで音遊びをしたりして、わらべうたの旋律の特徴や2種類の3音の響きのよさや面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうたを旋律の特徴や音階の響きを感じ取りながら歌う。</li> <li>・「ミソラ」、「ミファラ」の音を使って、声やキーボードで音遊びをする。</li> <li>・「ミソラ」、「ミファラ」のそれぞれの響きの違いについて、気付いたことや感じたことを全体で共有する。</li> </ul> <p>・日本のわらべうたの音階について知る。</p> <p>・「ミソラ」と「ミファラ」の3音をつかって、8拍の即興的な旋律づくりをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;旋律づくりのルール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3音のうち、2音以上つかう。</li> <li>・終わりは、ミの音にする。</li> <li>・8拍目は、休符にする。</li> </ul> </div>	<p>◇音楽に合わせた遊びを通して、曲に親しめるようにする。</p> <p>◇前時での既習事項を生かし、学習内容を想起できるようにする。</p> <p>◇2、3人組をつくり、民謡音階と都節音階のそれぞれの五音音階をつけたキーボードを用いて、違いの演奏を聴き比べて感じの違いがわかるようにする</p> <p>◆わらべうたの旋律や音階の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。</p> <p style="text-align: center;">【知①】〈発言・ワークシートの記述〉</p> <p>◇教師がそれぞれの音階をつかって範奏した上で、それぞれの音階について説明する。</p> <p>◇旋律づくりのルールを提示し、確認しながら児童が学習を進められるようにする。</p> <p>◆旋律、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、わらべうたなどで使われる音階をもとにした3音の音遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。【思・判・表】〈演奏聴取・発言〉</p>

<p>3 (本時)</p>	<p>○日本のわらべうたに使われている音階に親しみ、ミソラとミファラの3音を使って即興的につくった旋律を、友達とつなげて表現し、よさや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうたを歌ったり聴いたりして、2つの音階の違いを感じ取る。</li> <li>・ミを含めた3音（ミソラ・ミファラ）を使って、8拍の短い旋律を即興的につくる。</li> <li>・ミを含めた3音（ミソラ・ミファラ）を2、3人組でそれぞれ選び、4分の4拍子8拍の旋律をつくる。</li> <li>・つくった旋律を2、3人組でつなげて表現する。</li> <li>・学級全体で、互いのグループの表現を聴き、よさや面白さを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇常時活動後、前時で学習したミソラドレの音階（民謡音階）とミファラシド（都節音階）の響きの違いを教師の範奏を聴いて振り返る。</li> <li>◇教師の範奏や友達の前表現を聴いてミニキーボードでまねたり、応えたりする活動を行ってから即興的な旋律づくりを行うようにする。</li> <li>◇それぞれ即興的に表現した経験から、2・3人組で取り組みたい音を選ぶよう助言する。</li> <li>◇ウッドブロックなどを用いて定期的に拍を打つ時間をつくり、一定の拍に合わせて児童が旋律づくりを行えるようにする。</li> <li>◇まず一人ずつの前表現を聴いて、順番を変えて表現を試してみるよう助言する。</li> <li>◇ミソラ、ミファラのそれぞれの組合せに分かれて取り組めるよう教師が設定する。（2分交代で各2回ずつ）</li> <li>◇互いのグループの発表を聴いて、表現で用いている音の組合せを確かめながら、どのような音の組合せがよいか考えられるようにする。</li> <li>◆発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、3つの音から即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【技】〈演奏聴取〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆わらべうたの旋律に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【態】〈行動観察・発言〉</p>
-------------------	---	---

## 8. 本時の展開 (3/3 時間目)

### (1) 本時のねらい

- ・日本のわらべうたに使われている音階に親しみ、ミソラとミファラの3音をつかって即興的に旋律をつくることができるようにする。

### (2) 本時の展開

	○学習内容 ・ 学習活動	◇教師の働き掛け ◆具体的な評価規準 (評価方法)
導入 12分	○日本のわらべうたに使われている音階に親しみ、即興的に音楽をつくる。 ・わらべうたを歌ったり聴いたりして、2つの音階の違いを感じ取る。	◇常時活動のわらべうたの活動後、前時で学習したミソラドレの音階（民謡音階）とミファラシド（都節音階）の音階の響きを教師の範奏を聴いて振り返る。
展開 8分	・ミソラとミファラの3音をつかって、ミニキーボードで8拍の短い旋律を即興的につくる。  ・ミを含めた3音（ミソラ・ミファラ）を2、3人組でそれぞれ選び、4分の4拍子8拍の旋律をつかって表現する。	◇教師の範奏や友達の表現を聴いてミニキーボードでまねたり、応えたりする活動を行ってから即興的な旋律づくりを行うようにする。 ◇ミソラとミファラの担当する音のグループを事前に決めておく。 ◇ウッドブロックなどを用いて定期的に拍を打つ時間をつくり、一定の拍に合わせて児童が旋律づくりを行えるようにする。
10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;旋律づくりのルール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3音のうち、2音以上つかう。</li> <li>・終わりは、ミの音にする。</li> <li>・8拍目は、休符にする。</li> </ul> </div>	
10分	・つくった旋律を2、3人組でつなげて表現する。	◇まず一人ずつの表現を聴いて、順番を変えて表現してみるよう助言する。 ◇ミソラ、ミファラのそれぞれの組合せに分かれて取り組めるよう教師が設定する。(2分交代で各2回ずつ)
まとめ 15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;音楽のつなげ方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○じゅんばんにつなげる。</li> <li>○こうたいしてえんそうする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">A B A B   A A B B   など</p> </div>	
	・2、3人組のつなげた表現を全体で聴き、よさや面白さを伝え合う。	◇演奏する際には教師が簡単な伴奏をつけ、わらべうたの音階の響きがより感じられるようにする。 ◇互いのグループの発表を聴いて、表現で用いている音の組合せを確かめながら、どのよう



**ミ ファ ラ** の音で8はくのせんりつをつくろう

〈はく〉	1	2	3	4	5	6	7	8
	ミ	ファ	ラ	ファ	ラ	ファ	ミ	うん

〈せんりつづくりのきほんのルール〉

- ① 8はくの長さでつくる。
- ② ミファラのうち2つ以上の音をつかう。となりにいくとつくりやすい
- ③ さいごはミの音にする。

**ミ ソ ラ** の音で8はくのせんりつをつくろう

〈はく〉	1	2	3	4	5	6	7	8
	ミ	ソ	ラ	ソ	ラ	ソ	ミ	うん

〈せんりつづくりのきほんのルール〉

- ① 8はくの長さでつくる。
- ② ミソラのうち2つ以上の音をつかう。となりにいくとつくりやすい
- ③ さいごはミの音にする。

**ミ ソ ラ** の音で8はくのせんりつをつくろう

**ミ ファ ラ**

〈はく〉	1	2	3	4	5	6	7	8
								(うん)

〈せんりつづくりのきほんのルール〉

- ① 8はくの長さでつくる。
- ② ミソラとミファラのうち2つ以上の音をつかう。となりにいくとつくりやすい
- ③ さいごはミの音にする。

## ミソラの3音

- ・あかるい
- ・なべなべとおなじ音

## ミファラの3音

- ・こわい
- ・おばけがでそう
- ・なつかしいかんじ
- ・ひなまつりの音楽に  
にている

### <せんりつの つなげかた>

①じゅんばんにえんそうしてみよう

Aさん Bさん

②こうたいでえんそうしてみよう

Aさん Bさん Aさん Bさん

Aさん Aさん Bさん Bさん

Aさん Bさん Bさん Aさん

3にんのときは…

Aさん Bさん Aさん Cさん

AさんとBさんをはんたいにしても  
おもしろいかも。  
よりよいひょうげんを  
見つけよう♪



《音階シートの工夫》

